

## 遠征計画書

### エベレスト SEA TO SUMMIT TO SEA ～ベンガル湾から世界最高峰の頂、そして再び海へ～

【目標】 エベレスト史上初：海拔 0 m から世界最高峰に登頂して海へ還る「SEA TO SUMMIT TO SEA」を達成する。

【背景】 標高の基準となる「海」から「山頂」を目指す「SEA TO SUMMIT」という登り方がある。オーストラリアの登山家である Tim McCartney=Snape が世界で初めてエベレストを海から登ったのが 1990 年 5 月 11 日。ちょうどまさにその日に埼玉で生を享けた吉田智輝は、この「シートゥーサミット」の方法で、世界七大陸最高峰「セブンサミッツ」に登る「SEA TO SEVEN SUMMITS プロジェクト」に挑戦している。7 座全てを達成したものは未だかつていない中、現在 5 座達成。ニュージーランド、アメリカ、ベルギー、モンテネグロのライバルたちの先頭を走っている。来春には、第 6 弾としてエベレストへ挑戦する。

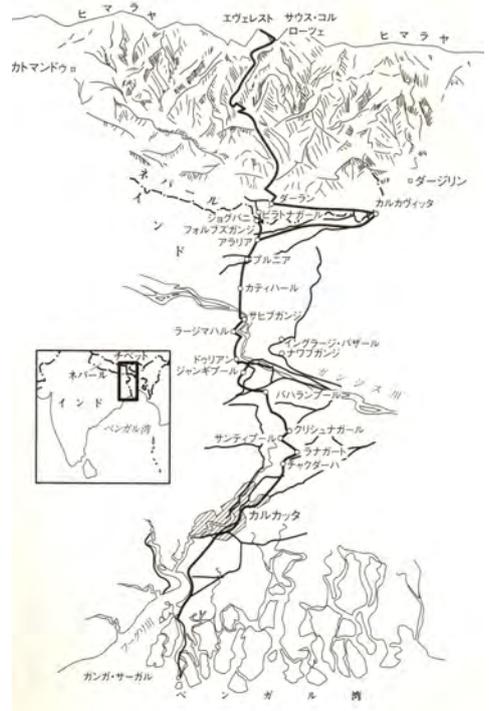
【概要】 海拔 0m 地点であるベンガル湾（インド洋）のガンガ・サーガルを出発し、1000km 超の道のりを歩き、世界最高峰エベレストの頂を極める。その後、ヒマラヤの谷を降り、エベレストを原流域とするガンジス川をパックラフトで下り、ベンガル湾の海に還り、Tim の冒険をさらに一步発展させる。

【日程】 2025 年 2 月 15 日～6 月 15 日（4 ヶ月間）

海からヒマラヤに至る 1200km の道のりを約 40 日で走破し、高度順応を重ねながら、標高 8848m のエベレストへの登頂を5月中旬に目指す。そして、約 30 日かけてガンジス川を降り出発の海へ到達する。

【費用】 計 2000 万円  
登山許可費用、渡航費、荷物運搬費、現地滞在費、装備費、保険費用など

【準備】 2024 年 9 月 5 日～10 月 10 日 (35 日間)  
ヒマラヤ・マナスル (標高 8163m) 挑戦  
その他、国内トレーニング



エベレスト STS 遠征図 1990 年

## 【遠征メンバー】

吉田智輝  
SATOKI YOSHIDA  
埼玉県鴻巣市出身・長野県信濃町在住  
1990年5月11日生まれ



「Mr. SEA TO SUMMIT」

世界初エベレスト SEA TO SUMMIT が達成された日に生まれる。SEA TO SUMMIT を自らのスタイルとして、国内外の山への海からの登頂に挑み続けている。海から山を繋ぐ道のりを自由に構想し、様々なアクティビティを掛け合わせながら自然を丸ごと楽しむことを信条としている。メインの活動として、「海拔0mから人力のみで七大陸最高峰の頂を極める」SEA TO SEVEN SUMMITS プロジェクトに挑戦中で、現在5座登頂(世界最多タイ)。ライバル達との国際競争の中、世界初達成を目指す。2023年にデナリ(旧マッキンリー)へのSEA TO SUMMITを49日間で達成した際、山頂からパックラフトで海を目指す「SUMMIT TO SEA」に挑戦するフランス隊に出会った。彼らの冒険的遠征に刺激され、今回のエベレスト遠征は、海から山頂、そして海に還る「SEA TO SUMMIT TO SEA」の世界初達成に挑戦する。辺境での生活・文化を、創作を通じて発信することを目指す。

執筆連載/SNSのリンク→



野村良太  
RYOTA NOMURA  
大阪府豊中市出身・北海道札幌市在住  
1994年10月21日生まれ



「植村直己冒険賞受賞」

小学校から大阪府立北野高校時代までは野球少年。北海道大学ワンダーフォーゲル部で登山を始め、62代の主将を務める。2019年2~3月にワンシーズンで知床半島と日高山脈全山縦走し、「令和元年度北大えるむ賞」受賞。2022年2~4月には北海道最北端の宗谷岬から襟裳岬までの分水嶺670kmを63日間で単独踏破。挑戦の様子を追ったドキュメンタリー番組「白銀の大縦走」がNHK総合にて地上波全国放送。その後、史上初の功績が評価され「第27回植村直己冒険賞」、「日本山岳・スポーツライミング協会山岳奨励賞」を受賞した。2023年春に行なったヒマラヤ未踏峰遠征の同時期に、吉田がデナリSTSに挑戦していることを知り連絡を取るようになる。「SEA TO SUMMIT」の考え方に共感し、思い返せば2022年の北海道分水嶺縦断の挑戦もSTSTSであったと思い至る。エベレスト STSTS 遠征を通して新たな境地に達せられるのではないかと期待している。